

福祉出前講座 一覧

1. 福祉共育とは

地域では、さまざまな立場の方が生活をしています。住み慣れた地域で、誰もが安心して生活をしていくためには思いやりが大切です。那須烏山市社会福祉協議会(以下、社協)では、誰もが自分らしく生活できる福祉のまちづくりのため、支え合いの視点を活かした学習や地域とつながりある活動として「福祉共育」を推進し、福祉体験の出前講座や福祉活動に協力しています。

2. 福祉出前講座を通じて、学んで欲しいポイント

1. あいさつ・会話をしっかりする。

「なんて話し掛けたら、よいのだろう」。困っている人を見かけても、声をかけられず、見なかったふりをしてまうことがあります。まず、相手と関わりを持つという意識づけをすることが必要です。

2. 高齢も、障がいも「できること」「できる為の工夫」があることを知る。

「高齢者や障がい者はなにもできない人」と思うと、自分が関わるより人に任せた方がいいように思ってしまうますが、高齢や障がいがあっても、普段の生活を工夫してできることは多く存在します。相手にもできることがあり、『できないことの中から自分ができることを手伝う』ということの知識をつけることが大切です。

3. 自分ができないと思ったら、周りに助けを求める。

「自分一人でがんばらなくて」と、無理をしてしまうと、お互いにケガをしてしまい、結果『相手に関わらなければよかった』と思ってしまうことがあります。自分だけではできない時、周りに伝える判断力も大切です。また、自分自身が辛い時、一人で抱え込まず、周りに助けを求めてもいいのだと考えられる力も大切です。

3. 福祉出前講座の費用

福祉出前講座は、基本2コマ分の時間(約90分)で体験が構成されています。

福祉出前講座の体験には、社協職員と地域のボランティアで構成された福祉共育サポーター(1体験、基本2名体制)が、学生の安全とフォローにあたり、楽しく体験できるよう対応しています。

また、体験によっては、市外の講師に来てもらうゲスト体験もあります。福祉共育サポーターと講師には、交通費(謝礼)をお願いいたします。

福祉共育サポーター 1名につき 1000円
講師(ゲスト体験) 1団体につき 2000円

その他、学習内容によっては、教材の購入をお願いすることがあります。(例:「介護食体験」とろみ剤等の購入費、約1000円)

4. 福祉出前講座の流れ

内容の企画・相談

- ①1ヶ月前までに社協に相談する。
(福祉体験の日程案・希望する学習内容・学習目標等)
- ②「申込書」(様式1)記入して、社協に提出する。※FAX可



打合せ・準備

- ①社協と内容・準備物の打合せをする。
- ②体験に必要な準備物をそろえる。



福祉 出前 講座

(約90分)

オリエンテーション・事前学習※約20分

・福祉の基本についての講話



体験学習※約60分

・希望の福祉体験による学習。
※体験時間は、希望する内容と学生数で多少前後します。
詳細は、ご相談ください。



まとめ

- ①振り返りを行う。(作文や絵を書くと、より良い学習になります)
- ②「実施報告書(様式2)」「学生の感想」を社協に提出する。
※「実施報告書」は体験後、1週間以内に提出をお願いします。
※「学生の感想」を社協に提出いただくと、次年度の参考になりますので、ご協力をお願いします。



福祉出前講座メニュー

- | | |
|----------------------------------|-------------|
| 1 目が見えづらい方の体験(視覚障がい) | 4ページ |
| 体験① 目が不自由な方の「できること」と「苦手なこと」はなあに？ | |
| 体験② 目が不自由な方は文章をどのように知っているの？ | |
| 2 高齢の方の体験 | 5ページ |
| 体験① 高齢になると、体はどんなふうになるの？ | |
| 体験② いくつになっても、おいしいご飯を食べるためには？ | |
| 3 福祉の便利な道具の体験 | 6ページ |
| 体験① 車いすで「できること」と「苦手なこと」はなあに？ | |
| 体験② バリアフリーには、どんなものがあるの？ | |
| 4 耳が聞こえづらい方の体験(聴覚障がい) | 7ページ |
| 体験① 耳が聞こえづらい方との会話はどうすればいいの？ | |
| 5 防災の体験 | 7ページ |
| 体験① 災害に備えるためには、何をすればいいの？ | |
| 6 障がい者スポーツ疑似体験 | 8ページ |
| 体験① パラリンピックには、どんな競技があるの？ | |
| 体験② パラリンピック競技以外でも、障がい者スポーツはあるの？ | |
| 7 ボランティアの体験 | 9ページ |
| 体験① 「募金」って、なんのために必要なの？ | |
| 体験② 家でもできる簡単なボランティアは、どんなものがあるの？ | |
| 8 その他 | |
| ・交流体験 | 10ページ |
| ・貸出物品 | 11ページ |

ご要望に合わせて内容は変更しますので、いつでもご相談ください。

1 目が見えづらい方の体験(視覚障がい)

体験① 目が不自由な方の「できること」と「苦手なこと」はななに？

「色と形の違い」

視覚障がいは、光も見えない全盲の方もいますが、ぼやけて見える弱視の方もいるので、とても幅の広い障がいです。ロールプレイやゲーム通じて、目が不自由な方(視覚障がい)が苦手なこと(色と文字の違い)とできること(形と材質の違い)について体験し、お手伝いの方法を学習します。



ロールプレイ
「点字ブロックを歩いている人を見かけたら」



ロールプレイ 「色と形の違い」



ゲーム 「積み木ゲーム」



ゲーム 「マスコット神経衰弱」

体験② 目が不自由な方は文章をどのように知っているの？

「視覚障がいの情報収集の方法」

視覚障がいは、紙に書かれた活字の把握が苦手です。視覚障がいの方の活字の把握方法で代表的なものが「点字」や「音訳」です。点字の正しい打ち方や音訳の使い方を体験します。



体験 「音訳体験」



ゲスト体験 「点字体験」

※「点字体験」は、事前に参加者のお名前(ふりがな付き)名簿の提出をお願いします。

2 高齢の方の体験

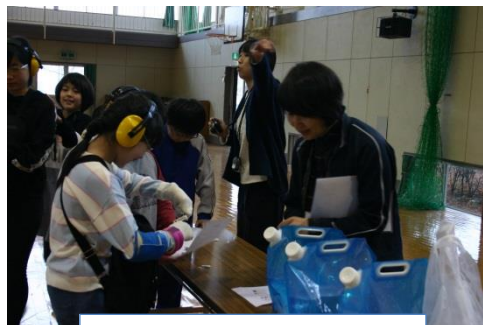
体験① 高齢になると、体はどんなふうになるの？

「年齢による体の変化と生活の工夫」

年齢にともない、体は成長と変化をしていきます。特に、高齢になると五感(視覚・聴覚・触覚)が変化をしてきます。疑似体験セットを着用し、高齢の方の五感の変化をロールプレイで体験し、家族の協力や生活の工夫について学習します。



ロールプレイ
「色の見え方と声の聞こえ方」



ロールプレイ
「お買いもの体験」



ゲーム 「お金早だしゲーム」

体験② いくつになっても、おいしいご飯を食べるためには？

「おいしい食事の最先端」

いくつになっても、おいしい食事を食べたいものですが、高齢になると、食べ物を飲み込む機能も低下します。介護食の代表的な「とろみ」について正しい知識を学ぶと共に、様々なタイプの高齢の方にやさしい食事にふれ、進化し続ける介護食品について学習します。



ゲスト体験 「介護食体験」



サンプル
※賞味期限の関係で食べられない物

※試食・試飲があります。材料費として、1000円ほど予算がかかります。

3 福祉の便利な道具の体験

体験① 車いすで「できること」と「苦手なこと」はなあに？

「車いすでお出かけすること」

車いすは、足に障がいがあったり、ケガをしたなど、歩いて移動することが大変な方の便利な移動用具です。しかし、町中は平坦な場所ばかりではありません。ロールプレイやゲームを通し、車いすできること(自走等の移動)や車いすを使っても苦手なこと(高めの段差・高い場所の物を取る)について体験し、お手伝いの方法を学習します。



ロールプレイ
「車いすの方が段差で困っていたら」



ロールプレイ
「車いすと物の高さ」



体験 「車いす車輛」



ゲスト体験 「特殊な車いす」

体験② バリアフリーには、どんなものがあるの？

「バリアフリーとユニバーサルデザイン」

バリアフリーとは、ある特定の人(障がい者や高齢者)が利用しやすいように特化した道具や制度等を意味します。ユニバーサルデザインとは、すべての人(障がい者や高齢者だけでなく、外国の方や子ども)が利用しやすく工夫された道具などを意味します。様々なタイプのバリアフリーやユニバーサルデザインにふれ、優しいまちづくりについて学習します。



課外学習 「まち調査」



体験 「ユニバーサルデザイン」

4 耳が聞こえづらい方の体験(聴覚障がい)

体験① 耳が聞こえづらい方との会話はどうすればいいの？

「聴覚障がいの方に伝える方法」

聴覚障がいは、音が全く聞こえない方もいれば、片耳だけ聞こえない等、様々なタイプがあります。

聴覚障がいの方は、会話を聴きとることが苦手です。会話の代表的なものが「手話」と「要約筆記(会話の活字化)」です。体験では、手話の表し方を学習します。



体験「手話体験」

※「手話体験」は、事前に参加者のお名前(ふりがな付き)名簿の提出をお願いします。

5 防災の体験

体験① 災害に備えるには、何をすればいいの？

「防災の心構え」

近年、水害や地震等、様々な災害がおきています。災害がおきてから必要なものをそろえるのは、とても難しいです。「日頃からどのような物をそろえておかなければならないのか」や「避難中に学生でもできることは何か」について学習します。



体験「避難所体験」



体験「避難袋づくり」

6 障がい者スポーツ疑似体験

体験① パラリンピックにはどんな競技があるの？

「パラリンピック疑似体験」

4年に1度、オリンピックと共に、障がい別スポーツの祭典パラリンピックが開催されます。パラリンピックでは、どのような競技が行われているのか、疑似体験を通し、スポーツマンシップについて学習します。

※本プログラムのスポーツ体験は、小学生でも体験できるよう安全プログラムにしています。その為、本来のスポーツルールと若干異なる部分があります。



体験 「シッティングバレー」



体験 「車いす競技」



体験 「ボッチャ」



ゲスト体験 「義肢装具」

※「義肢装具体験」は、中学生以上の体験となります。

体験② パラリンピック競技以外でも、障がい者スポーツはあるの？

「障がい者スポーツとユニバーサルスポーツ体験」

パラリンピックの競技以外にも、障がいを問わず、みんなで楽しめるスポーツはたくさんあります。みんなで楽しめるように工夫された障がいスポーツを体験し、一緒に取り組むことの楽しさを学習します。



体験 「サウンドテーブルテニス」



体験 「アキュラシー」

7 ボランティアの体験

体験① 「募金」って、なんのために必要なの？

「赤い羽根共同募金」

ボランティアには、困っている人を助ける「直接的ボランティア」とボランティアをしている人を支える「間接的ボランティア」があります。間接的ボランティアの代表的なものが、募金活動です。

赤い羽根共同募金が、なぜ必要なのかを学び、どのように使われるのかを知ることで、ボランティアの種類について学習します。



講話 「募金はボランティア？」



工作 「募金箱を作ろう」

体験② 家でもできる簡単なボランティアは、どんなものがあるの？

「ちょいボラ体験(収集ボランティア)」

間接的ボランティアには、使い捨て切手や歯ブラシ等、集めることで人の役に立つ「収集ボランティア」があります。収集ルールを守らないと相手に迷惑をかけてしまうこともあります。今必要とされている収集ボランティアの種類や正しい知識について学習します。



講話 「フードバンク」



体験 「使い捨て切手」

8 交流体験

ご希望に合わせた地域の協力者をご紹介、仲介いたします。

《例》



いきいきクラブ

スポーツ等を通して、地域に住む高齢者の生きがい・健康づくりをしている団体です。地域の高齢者との交流の際、お声かけください。



ボランティア団体

特技を生かしたボランティア団体が市内にはたくさんあります。
(上記の例は、配食と手品等披露のボランティア)

地域の交流や施設訪問前の学習の際、お声かけください。